

3. おもいでの記事

(令和6年度 全国高等学校総合体育大会)

3. おもいでの記事（表彰者代表）



「福岡インターハイを通して感じた経験」

福岡第一高等学校

結城 匠輝

陸上競技

地元開催の福岡インターハイでは、多くの方々のご支援のもと、男子フィールド競技学校対校で優勝を獲得することができました。

私たちのチームは主に跳躍種目に力を入れており、先輩方が築いてきてくださった跳躍強豪校という看板を自分達も掲げていくという強い思いを持ち、昨年のインターハイ後から練習に取り組んで参りました。練習前は、成功する姿を皆で想像し、毎日成功への強い意志を確認することから始め、練習中はチーム全員が「ファイト」と大きな声を出し、互いに鼓舞し合うことできつい練習も質を落とすことなく乗り越えることができました。インターハイでは、練習の成果を発揮したいという思いが強く、過度に緊張していたのですが、試技前「いきます」と声を出すとチームメイト全員が「はい」と呼応してくれたことで、全員で戦うんだと感じ良い緊張感で競技に挑むことができました。

一年間、「福岡インターハイで第一旋風を巻き起こす」をチームの目標とし、一人一人が自分の種目に真摯に向き合い続けたことがフィールド優勝の一番の要因だと考えます。また、その選手をサポートしてくださった先生方、チームメイト、家族、全員で勝ち取った優勝だと思います。

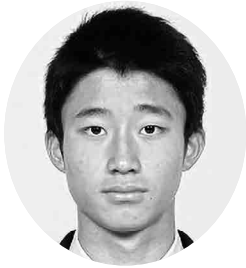
今回、私たちがこのような結果を残すことができたのは、大会開催に携わっていただいた全ての方々の支えのおかげです。ありがとうございました。これからも常に高い志を持ち競技力だけでなく、人間力も向上させていきたいと思っています。

応援の程よろしくお願いたします。



第77回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会
令和6年7月28日～8月1日

順位	学校名	都道府県	総合得点
1	福岡第一	福岡	22
2	花園	京都	20
3	紀央館	和歌山	12
4	清風	大阪	10
5	岩倉	東京	8
5	海南	和歌山	8
5	FC今治明德	愛媛	8
5	宮崎第一	宮崎	8



「くやしさをバネに」

福岡第一高等学校

大森 恵偉音

陸上競技

今年、地元福岡で行われたインターハイで男子三段跳びと走り幅跳びの2種目に出場し、三段跳びにおいて優勝いたしました。昨シーズンは4月から8月にかけて行われた大会や北海道インターハイにおいて順調に自己記録を更新することができていました。しかし、8月末に腰の大怪我をしてしまい、その後に控えていた全国大会を全て辞退しなければいけない状況になってしまい、思うような結果を残せないままシーズンを終えました。冬季練習が明けて行われた全国合宿では、自分の持つ自己記録を上回る先輩方と練習を行い、冬季練習の成果もあり、筋力や走力など怪我をした昨シーズンの自分と比べ大きく成長できていることを実感できました。

高校2年生のシーズンが始まり、自己記録を更新しながらインターハイ予選も2種目で順調に勝ち進むことができました。そして、6月に行われたU20日本陸上競技選手権大会では、走り幅跳びに出場し、大学生など年上の選手も出場する中で優勝することができ自信に繋がりました。しかし、そこから走り幅跳びでは記録が思う様に伸びない日々が続きインターハイを迎えました。予選は順調に通過し決勝を迎えました。6本の跳躍の中にも良い跳躍はありましたが、最終跳躍の6本目でファールをしてしまい4位という結果に終わってしまいました。U20日本陸上競技選手権大会で優勝し、地元開催

のインターハイで「絶対に勝たなければいけない」というプレッシャーに自分自身が負けてしまい、悔しいのはもちろん、情けない気持ちにもなりました。

しかし、落ち込んで「2日後の三段跳びを疎かにするわけにはいかない」と思い、しっかりと気持ちを切り替えて三段跳びに挑みました。幅跳びの疲労もある中で予選を迎えなかなかな思うような動きができませんでした。

しかし、予選は無事通過し、決勝に進むことができました。決勝では、予選とは一転し体のコンディションも上がってき、1本目から1位につけ順調に試技を重ねていきましたが、5本目の跳躍で逆転を許してしまいました。ここで自分に残された試技は、残り1回となり2日前の走り幅跳びで、負けてしまった悔しさを全てぶつける気持ちで最終の6本目に挑みました。そして会場に足を運んでいただいた、両親をはじめ多くの方々やチームメイトの応援に背中を押され、最終跳躍で自己記録を大きく更新し、再逆転で優勝することができました。

今回のインターハイは、大会運営に関わって頂いた多くの方々や両親はもちろんのこと、チームメイトの手厚いサポート、日々の先生方からのご指導、沢山のご声援をいただいた地元の方々のおかげで優勝できました。来年もその感謝の気持ちを、結果で示せるように日々の練習に励んでいきます。

ありがとうございました。

第77回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 令和6年7月28日～8月1日

男子三段跳 決勝

順位	氏名	学校名
1	大森 恵偉音	福岡第一 (福岡)
2	大神田 秀人	足立新田 (東京)
3	中崎 權斗	清風 (大阪)
4	井上 敏志	玉野光南 (岡山)
5	木戸 瑛太	越谷南 (埼玉)
6	大塚 公紀	摂津 (大阪)



「インターハイを通して」

福岡第一高等学校

中谷 魁 聖

陸上競技

今年、福岡インターハイでは、多くの方々の応援やサポートのもと、個人では走り高跳びで優勝、チームとしてはフィールド優勝することができました。走り高跳びでは、1年時からインターハイ優勝を目標に掲げて日々の練習に取り組んできました。しかし、昨年の北海道インターハイでは、2m00cmで9位と表彰台に上ることができず、その悔しさをバネに練習に励んできました。その結果、シーズン最後のJOCジュニアオリンピックカップU18/U16陸上競技大会では、自己記録を大幅に更新し2m16cmという大会新記録で優勝しシーズンを終えました。

昨年の冬季練習では、インターハイの悔しさをインターハイで晴らすという強い気持ちを持ち続け、さらには日本高校記録である2m23cmの更新を視野に、一つ一つの練習の意味合いをより深く考えて取り組み、同時にコンディション管理も更に細かく考え、大きな怪我もなく冬季練習を積むことができ、今シーズンを迎えることができました。

しかし、シーズン初戦からは思うように記録が伸びず、不安の残るなか、4月下旬にドーハで開催されたU20アジア選手権の日本代表として出場しました。初めての

国際大会で不安もある中でしたが、挑戦者という立場で逆に大会を楽しもうといった気持ちを強く持ち、その結果2m19cmで2位と自己記録を更新することができました。国内の大会では経験することができない、海外での試合展開やコンディション調整の大切さ、海外選手との交流など貴重な経験をさせて頂き、この国際大会での経験や結果は自分の中で大きな自信に変わりました。

帰国後インターハイ予選を迎え、無事予選を順調に勝ち抜き本番を迎える事ができました。そして今年は、地元開催ということもあり気持ちの面や天候などコンディションにも恵まれ、沢山の応援に駆けつけて頂いた方々のご声援の後押しもあり、2m24cmを跳ぶことができ、大会新記録、日本高校新記録を樹立しての優勝やチームとしてもフィールド優勝をすることができました。

今回のインターハイを通して日々の練習はもちろん、それ以上に先生方や両親、大会運営に関わって頂いた多くの地元関係者の皆様、チームメイト一人一人の支えがあつてこそその結果だと確信しました。本当に多くの方々に感謝しています。

今後も競技力向上だけでなく人間性の向上にも努め、感謝の気持ちを忘れずに、更に多くの方々に応援していただける選手になっていきたいと思ひます。

第77回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 令和6年7月28日～8月1日

男子走高跳 決勝

順位	記録	氏名	学校名
1	2m24	中谷 魁 聖	福岡第一 (福岡)
2	2m12	石見 だいや	宇都宮南 (栃木)
3	2m12	中村 佳 吾	関大北陽 (大阪)
4	2m09	稲垣 公 生	金沢龍谷 (石川)
5	2m06	藤井 優 作	城南 (徳島)
6	2m06	難波 康 大	四学香川西 (香川)
6	2m06	井川 稜 斗	近代高専 (三重)



「インターハイの思い出」

福岡県立朝倉高等学校

福永実由

陸上競技

今回、福岡インターハイで女子やり投げに出場し、優勝できたことをとても嬉しく思います。競技場は馴染みのある場所でしたが、やはりインターハイという大舞台では、いつもと違う緊張感がありました。昨年の県予選で予選落ちし、北九州予選にも行けなかった悔しい思いを胸に、今年はその悔しさを力に変えて練習を重ねてきました。

予選の2投目で、決勝進出が決まった瞬間は本当にホッとしました。決勝では、試合を楽しむことを心掛け、最初の投擲からセカンドベストを出せたことが自信になり、そのまま優勝に繋がったことが嬉しかったです。この結果を得られたのは、何よりも支えてくれた両親や顧問の先生方、そして応援してくれた周りの皆さんのおかげです。

特に、観客席でいつも大きな声で応援してくれるチームメイトの存在が、私にとって大きな励みでした。皆さんの応援があったからこそ、最後まで集中して投げることができました。この場を借りて、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。これからもさらなる成長を目指して頑張りますので、引き続き応援よろしくお願ひします。本当にありがとうございました。

第77回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 令和6年7月28日～8月1日

女子やり投 決勝

順位	記録	氏名	学校名
1	48m03	福永実由	朝倉(福岡)
2	47m92	松山亜緒	宇治山田商(三重)
3	47m67	谷飛香里	白鷗大足利(栃木)
4	47m55	近藤優奈	就実(岡山)
5	46m92	平岩里彩	至学館(愛知)
6	45m95	吉田さくら	相模原弥栄(神奈川)



「競技者としての心構え」

福岡大学附属若葉高等学校

柴田 藍名

陸上競技

インターハイまでの苦しい練習に耐えて、女子三段跳で優勝することが出来ました。中学時から、沢山の怪我に悩まされ、高校生になってからも同じ怪我を繰り返し、大きな怪我で半年間、練習ができない時もありました。今年のインターハイ予選も怪我を抱えながらの試合になりましたが、決して諦めることなく自分を信じて練習に励み、大会に臨みました。元々、短距離だけを専門種目としていましたが、高校2年生から三段跳を始めました。その年もインターハイに出場し、決勝まで進出しましたが表彰台には登れず、自分の力の無さを実感しました。跳躍種目は初心者なので技術を身に付けられるように、短距離と並行して冬季練習を頑張ってきました。しかし、上達はしましたが、他の選手に比べたら技術も安定感も劣っており、それが自分の課題になりました。けれど、他の選手には無い、短距離で鍛えてきたパワーと推進力を自分の持ち味とし、自分の力が一番発揮できる跳びをし

て、記録を伸ばしてきました。上手くいかず、記録に繋がらない時もあるけれど、自分と向き合い、技術を追求してきました。私は、どんな状況であっても、「自分なら必ずできる」という強い意志と自信を持つことができれば、どんなことも頑張り乗り越えられることを学びました。苦しい時や辛い日々が沢山ありましたが、三段跳で新たな可能性を見出して、陸上競技の楽しさを改めて感じる事ができました。他の人や型にはまらない自分らしさと強い気持ちを持って高校3年間の集大成として結果を残すことができ、嬉しく思います。このような結果を残すことができたのは、いつも支えてくれた両親と指導していただいた先生方、一緒に練習を頑張り、乗り越えてきた仲間、陸上に関わる全ての方々のお陰です。私は沢山の方々に支えられて陸上競技ができていたことを高校生活でより一層感じました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、更なる記録更新を目指して日々努力して自分を高めていきたいと思っています。

第77回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 令和6年7月28日～8月1日

女子三段跳 決勝

順位	記録	氏名	学校名
1	12m72	柴田 藍名	福大若葉(福岡)
2	12m68	山中 真琴	京都文教(京都)
3	12m67	高宮 ひかり	大塚(大阪)
4	12m61	山崎 りりや	鳴門渦潮(徳島)
5	12m59	三橋 小桜	大分西(大分)
6	12m48	西村 玲奈	西城陽(京都)





「インターハイの感想」

九州産業大学付属九州高等学校
有吉 遼太

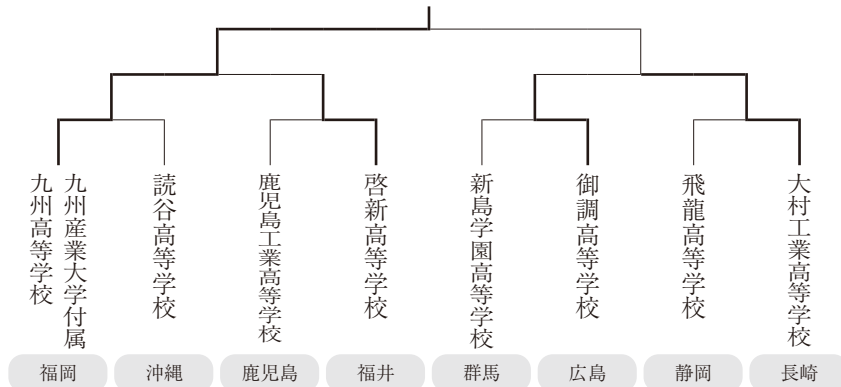
ソフトボール競技

この度、私たち九州産業大学付属九州高等学校男子ソフトボール部は、7月に長崎県大村市で行われたインターハイで優勝という成績を収めることができました。捕手として出場した今大会は、35度に上る猛暑の中厳しい試合展開も制しながら最後まで全力を出し切ることができました。決勝戦では痺れるような展開が繰り返され、会場が熱気に包まれていました。九州高校1点リードで迎えた最終回、最後のバッターを三振に打ち取り、勝利と同時に日本一の称号を掴み取りました。優勝した瞬間の心境として、最後の一球を掴み取った瞬間は頭が真っ白になり、緊張の糸が切れて安堵感が溢れ出てきました。試合直後は優勝した実感が湧きませんでした、間違いなく最高の瞬間でした。高校3年間の集大成を最

高の形で出す事ができ、とても誇らしく思います。また、このような経験ができたのは応援してくださったたくさんの方々のおかげであり、心から感謝しています。



14年ぶり3回目の優勝
九州産業大学付属九州高等学校（福岡）





「悲願の初優勝」

敬愛高等学校

本田 里来

柔道競技

私は今年団体戦・個人戦ともに優勝できた理由は、試合に出る選手、出られない選手関係なく全員が一つになり日本一を目指してこれたからだと思います。

だからこそ団体戦では、特にチームメイトの気持ちを背負って戦うことができました。

そして、もう一つの理由は試合を楽しめたことです。昨年のインターハイは団体・個人ともに3位という結果に終わりました。昨年のリベンジでプレッシャーはありましたが、沢山の応援が力に変わり、100%のパフォーマンスができました。

今年のインターハイは優勝できましたが、私は沢山の負けを経験してきました。

今、部活やスポーツをしている人は、どれだけ練習を重ねても勝てないことがあると思います。

ですが、いつか目標を達成できると自分自身とチームを信じて頑張ってください。

そして、試合場に立てることに感謝し、楽しんでほしいです。

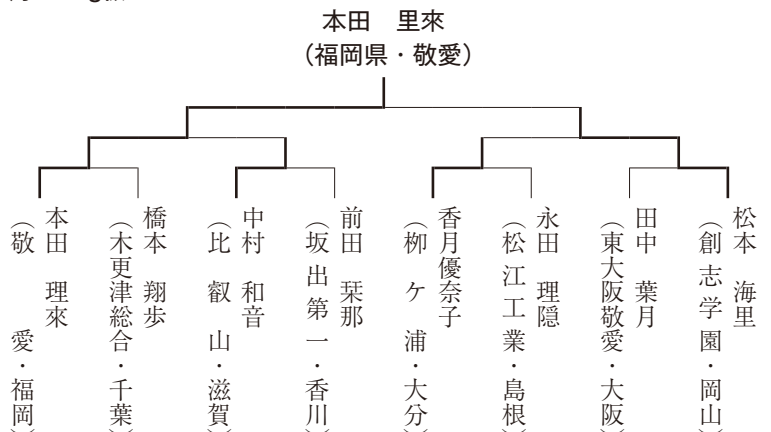
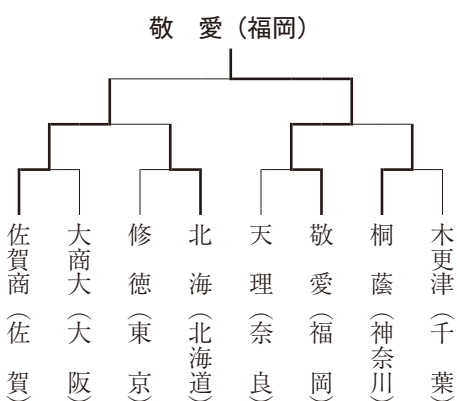
私も今までの経験とインターハイ優勝の経験を活かして、日本や世界で活躍できるように頑張ります。



令和6年度 全国高等学校総合体育大会柔道競技大会

団体戦女子

女子57kg級





「インターハイを終えて」

大牟田高等学校

織田 照弓

柔道競技

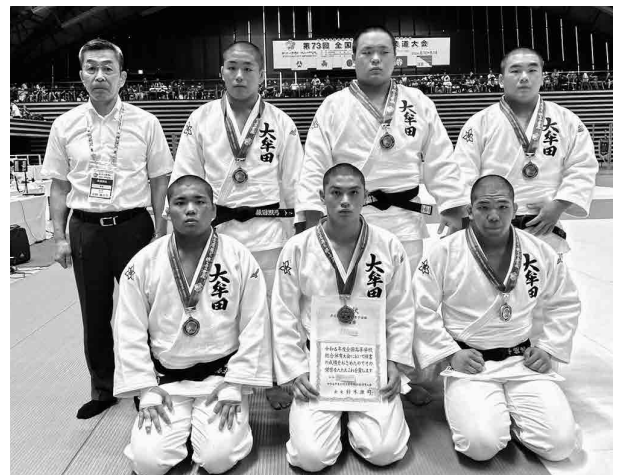
私は3歳から柔道を始めました。小学校時代、中学校時代はとても弱く、なかなか勝てずに柔道をやめたいと思う時期もありました。そんな時、杉野先生から声をかけていただき、大牟田高校に入学しました。高校では、必ず日本一になるという強い気持ちで、毎日自分自身に負けることなく練習に励みました。

高校2年生の新人戦では、県大会2位となり何とか九州大会につなげることができましたが、2回戦敗退。すごく悔しくて、情けない気持ちでいっぱいでした。3月の全国高校選手権大会で初めての全国大会に出場しましたが、1回戦敗退。全国大会の壁の大きさを痛感しました。

私たちの代はみんな身体が小さく弱いと言われていました。3年生に上がり、それをどうにか見返したいという気持ちがあり、必ず結果を残そうとチーム全体で話し合いました。全員で同じ方向を向いて頑張りましたが、金鷲旗では3位、インターハイでは準優勝とあと一歩日本一には届きませんでした。個人戦では、先生方、チーム、ずっと支えてくれた両親に恩返しをしたい、喜んでほしいと思い試合に臨みました。1試合目から延長戦に入り苦しい戦いばかりでした。一つ一つ苦しい場面を戦い抜けたのは、みんなからの応援があったからです。

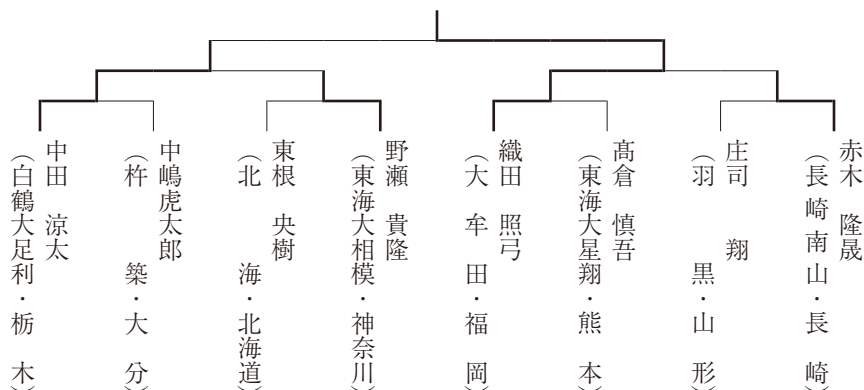
応援が背中を押してくれること、このインターハイで改めて実感しました。優勝した瞬間、先生方や家族、チーム全員が喜んでいる姿を見たとき、ここまで頑張ってきた良かったと思いました。

この優勝は、支えてくださった先生方、仲間、そして家族がいたからこそその結果だと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れずに次のステージに向かい頑張っていきます。



令和6年度 全国高等学校総合体育大会柔道競技大会 男子81kg級

織田 照弓
(福岡県・大牟田)





「インターハイ初挑戦」

大牟田高等学校

高橋 南乃

柔道競技

1年生のインターハイ団体戦は県大会3位、個人戦は県大会初戦敗退でした。次の大会に何一つつながらず、頭が真っ白になったことを覚えています。そして次こそと臨んだ新人戦の九州大会では、今まで勝ってきた相手に一本負けで2回戦敗退という結果に終わってしまいました。期待されて入ってきたのにチームのために何も貢献できていない自分が情けなく、毎週のように練習を見に来てくれる両親に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

だからこそ2年生のインターハイでは絶対に優勝してやるという思いで、どんなに苦しい時でも相手の顔を想像し、我慢して努力を積み重ねて「私ならできる」と信じて毎日練習に励んできました。

迎えた2年生のインターハイ県予選では団体戦の決勝で敬愛高校と当たり、代表戦でまた自分のせいで負けてしまいました。個人戦では何が何でも優勝するという思

いで臨み、今まで負けていた相手に勝ち優勝することができました。この1勝が私にとって大きな自信になりました。

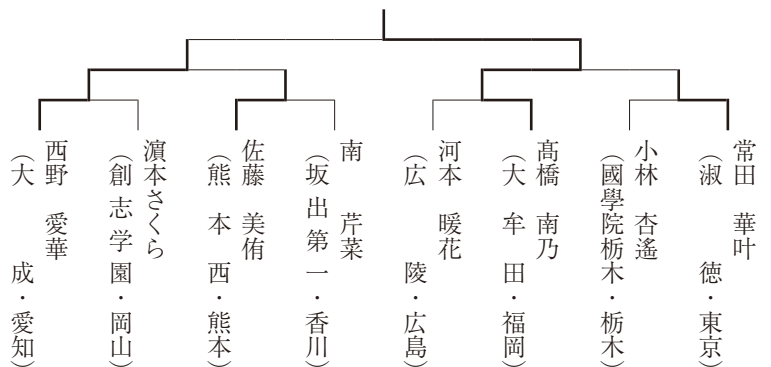
インターハイの組み合わせは厳しく、途中延長戦に入ることもありましたが、こんなところでは終われないという意地を出し戦いました。決勝では今までやってきたことを信じて、自分の柔道を貫き、戦い抜きました。その結果、目標であった日本一になることができました。結果が出ない時でも支え続けてくださった先生方や両親、仲間たちに恩返しすることができて、自分が今までやってきたことは間違っていなかったのだと思いました。思うような結果が残せなかった時期があったからこそ、精神的にも強くなることができたと思います。

来年の個人戦で日本一を狙うのはもちろん、団体戦で必ずチームをインターハイに導き、日本一になれるよう日々努力し続けます。



令和6年度 全国高等学校総合体育大会柔道競技大会 女子70kg級

高橋 南乃
(福岡県・大牟田)





「日本一までの道のり」

中村学園女子高等学校
橋本陽菜

剣道競技

私は第71回全国高等学校総合体育大会の個人・団体ともに優勝させて頂きました。高校で最後となる大会で最高の結果を残せたことをとても嬉しく思います。私は日本一になりたくて中村学園女子高校に入学させて頂きました。入学してからは、新しい仲間との寮生活も始まり楽しさもありましたが、慣れない環境への不安もありました。1年時は先輩方に仲間と嬉し涙を流しながら喜ぶ姿を見せて頂き、「来年は自分がレギュラーに入って日本一になってやる!」という気持ちになったのを今でも覚えています。2年時は、玉竜旗で優勝はできたものの一番懸けていたインターハイで予選リーグ敗退という結果に終わってしまい、その時の光景や気持ちは今でも忘れていません。次鋒というポジションで出させて頂きながらもチームの勝ちに貢献できず自分の未熟さを痛感しました。

そして新チームとなり、主将と大将を務めることになりました。毎日、日本一になるために厳しい稽古に励みましたが思うような結果はなかなか出せず苦しいことの連続でした。全国選抜大会、玉竜旗は共にベスト8という結果に終わりこれまでに経験したことのない苦難に挫

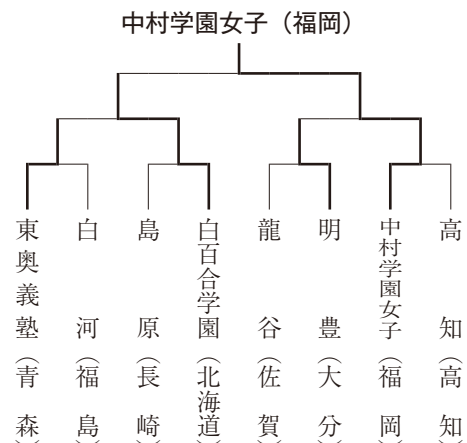
けそうになりましたが、両親に恩返しをしたい、先生を日本一の監督にしたい、この仲間と日本一になりたいという一人一人の気持ちが大きなパワーとなりインターハイでは練習通りに自分の剣道をすることができました。また自分、仲間、先生を信じて油断することなく最後の1秒まで後悔のないよう全力で戦い抜きました。最後まで自分を信じてくれた先生、仲間には感謝しかありません。

3年間を振り返ると、苦しいことも多かったです。今は幸せだったと強く思います。ふとインターハイの事を考えると、優勝が決まった瞬間や、みんなでガッツポーズをして写真を撮っている時に戻りたいと思います。また、日本一を目指す中で剣道の技量面だけでなく人として大きく成長できました。自分自身との戦いであったり、仲間と本気でぶつかり合ったりしたこともありましたが、それがあったからこそ今の自分があると思います。

こうして結果を残せたのは、いつも支えてくれた家族、ご指導して下さった先生方、最後まで私たちを信じて応援して下さった方々のおかげです。私は大学に進学後も再び日本一になり、日本を代表とする選手になりたいと思っています。



令和6年度 全国高等学校総合体育大会柔道競技大会 団体戦女子





「全国総体優勝までの努力」

東福岡高等学校

中山 聖也

ボクシング競技

私は高校3年生でインターハイ優勝をしました。ボクシングを始めたのは小学校のときで、最初はただの興味からでしたが、次第にその魅力に引き込まれ、真剣に取り組むようになりました。高校に入ると、練習は一層厳しくなり、毎日のように汗を流し、体力と技術を磨きました。「もっと強くなりたい」と自分を奮い立たせ、努力を続けました。

インターハイの決勝戦、相手は強い選手でしたが、私は冷静さを保ち、今まで学んだことをすべて出し切りました。試合が終わった瞬間、優勝が決まり、これまでの努力が報われたことに嬉しくほっとしました。優勝はもちろん嬉しいことですが、それ以上に自分の成長を実感できたことが何よりの喜びです。

この経験を通じて、努力し続ける大切さと、諦めずに挑戦し続ける強さを学びました。



令和6年度 全国高等学校総合体育大会ボクシング競技大会
ライトフライ級

順位	氏名	都道府県	学校名
1	中山 聖也	福岡	東福岡
2	吉田 太雅	広島	崇徳
3	小林 栄絢	栃木	白鷗大学足利
3	長谷部 星那	兵庫	西宮香風
5	三芳 亮太	愛知	名古屋工学院専門学校高等課程
6	山崎 瑠衣斗	佐賀	高志館
6	佐々木 愛斗	大阪	興國
6	川越 琉偉	千葉	西武台千葉

「インターハイ優勝までの道」

福岡県立八幡中央高等学校

大庭明莉

ウェイトリフティング競技

私は令和6年第26回全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会女子64kg級で優勝しました。インターハイで優勝するために私は早いときには6時、遅くても7時前には学校に着き自分の課題を克服するために毎日朝練をしていました。部内に同級生や1つ上の代に女子選手がいなかったため少し寂しかったのですが放課後も活気のある練習で楽しくやりがいがありました。1年生のときからインターハイで入賞し記録が伸びていきました。しかし1年生の10月頃に両膝の靭帯を損傷してしまい、さらには12月に右肘の靭帯を損傷し、思うように練習ができない日が続きました。少しずつ回復し、練習に復帰してもすぐに痛みが出てしまうことが続き記録が伸び悩み始めました。そうして2年生の夏まで全国順位が4位というのは変わらず、とても悔しい思いをしました。11月のレディースカップに階級をあげて71kg級で出場し、やっと4位の沼から抜け出し2位という結果を出すことができました。結果の内容としては試技を6本とも成功させることができ、記録も成功率も良く、満足できた試合でした。そして、この試合はずっと調子の悪かった私にとって少し自信がつくきっかけとなりました。この大会で得たことを活かし、私は3月の全国選抜大会に挑みました。この大会は守先生の監督就任での最後の全国大会であったため今まで以上に気合が入り、それと同時にとても緊張しました。階級変更で64kg級に来た今まで戦ったことのない選手と戦い、私の全試技を終えた後にその選手の最終試技を待つという形になり、その結果C&Jで逆転され1キロ差で負けてしまいました。

スナッチの1本目を失敗してしまったことで高重量に繋げることができず優勝を逃してしまい、守先生に最後の金メダルをかけることができなかったことがとても悔しくて現実を受け入れることができませんでした。しかし、その結果を受け止めることができた時に私は自分の「弱さ」を再認識することができました。競技面やメンタル面においてまだたくさんの課題があることや課題の克服が足りていなかったなどを学び、気持ちを入れ替えインターハイまでの5ヶ月間必死に練習に励みました。4月にオリンピックである太田先生が監督に就任したことで練習量が増え、さらに自分の課題を見つけることができました。課題を克服するために色々なメニューを太田先生に考えていただき、それをこなしていくうちに少しずつ力がつきだし、自信にも繋がりました。そうしてインターハイに出場し、セコンドについていただいた太田先生やコーチの方の試合戦略の下、試合が進んでいきました。2種目とも1本目を失敗してしまったことに焦ってしまいましたが、最終試技を成功させた瞬間、涙が止まらず優勝が決まった瞬間も言葉にならないほど嬉しかったです。

そしてたくさん時間はかかってしまったけど今まで指導していただいた守先生や4月から指導をしていただき強くしていただいた太田先生に金メダルをかけることができ本当に嬉しかったです。ずっと応援してくれていた家族や仲間などみんなが喜んでくれる結果を出すことができよかったです。これからも感謝の気持ちを忘れずに精進していきます。

第77回全国高等学校総合体育大会ウェイトリフティング競技大会
第26回全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会
令和6年8月4日(日) 諫早市 小野体育館

女子64kg級
決勝

順位	記録	氏名	都道府県	学校名
1	165	大庭明莉	福岡	八幡中央
2	164	秦萌々菜	愛媛	新居浜西
3	160	須賀日和	京都	鳥羽
4	162	坂本瑠那	香川	香川中央
5	145	國井渚紗	北海道	札幌あすかぜ
6	142	小野寺美羽	岩手	水沢





「地元インターハイを終えて」

祐誠高等学校

鶴 葵 衣

自転車競技

私は開催地でもある今回の総体で、500mタイムトライアルを高体連新記録で優勝という結果を残すことができ、本当にうれしかったです。ご指導いただいた先生や応援してくれた保護者、毎日一緒に練習している仲間たちに感謝します。また、運営という形で大会を支えていただいた地元の高校生の皆さま、本当にありがとうございました。

今年の総体は、スローガンにもある「ありがとうを強さに変えて」という気持ちで挑んだ大会でした。大会までの練習では、気の緩みで大きなけがをしたり、また仲間をけがさせないように注意しながら、きつくて厳しい練習を頑張ってきました。大会では優勝することができましたが、私の目標は自分の記録を更新することでした。全国大会という舞台に立った緊張もあり、目標のタイムを出すことはできませんでした。それでも大会中は参加している選手の競技に対する意識の高さや技術を間近で見ることができ、自分もまだまだ頑張らなければと気持ちを高めることができ、とても良い経験になりました。

高校生活も半分を過ぎ、来年は最後の総体になります。これからも自分に勝つという気持ちを常に持ち、練習を怠らず頑張っていきたいと思います。

令和6年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会
秩父宮記念杯 第75回全国高等学校対抗自転車競技選手権大会
第69回全国高等学校自転車道路競争中央大会
令和6年7月26日(金)

500mタイムトライアル 決勝

順位	No.	選手名	学年	学校名	都道府県	Finish Time	km/h
1	541	鶴 葵 衣	2	祐 誠	福岡	36秒173	49.8
2	521	戸 田 朱 音	3	福井科技	福井	37秒983	47.4
3	533	井 関 文 月	2	高松工芸	香川	38秒067	47.3
4	548	鍋 島 実 愛	2	宮 崎 農	宮崎	38秒071	47.3
5	540	佐々木 なつみ	3	祐 誠	福岡	38秒277	47.0
6	507	前 野 東 咲	3	星槎川口	埼玉	38秒311	47.0

※女子高体連新
大会新